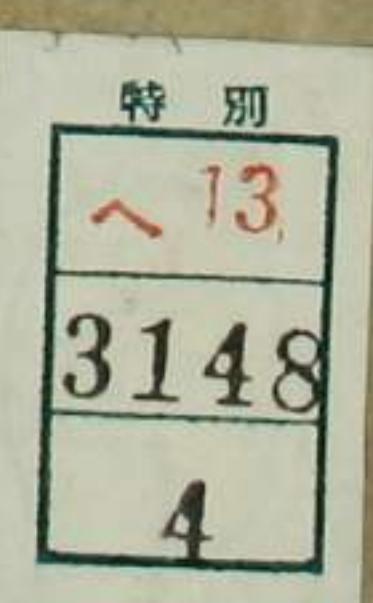


• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 JAPAN Tama



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

## 三七全傳南柯夢卷之四

真葛が朝風

東都

曲亭馬琴編次



今市全八郎。布施蝶九郎。ハ。の夜。三勝を被ひ。奪去。三條河原。とて來つる。笠松平三。撞見。相撲。惡棍脚。平足。平。ハ。これが爲。小打殺。剝三勝。ハ。赤根半七。か。引攫。三勝。方。も。そ。ど。さしづぶ。の。追立。一鶴。ま。麻鳴。又。捉ら。心持。平三。をうち。捨。され。を。追蒐。泥。よ。塗。立。索。り。うしが。終。よ。め。ど。真葛。が。原。の。ほ。う。そ。夜。ハ。あ。と。と。明。ゆ。き。甲。夜。の。闇。諱。より。引。け。れ。を。一。も。立。沐。ら。ね。疲。勞。と。腰。う。伸。一。立。よ。面。を。え。あ。う。と。示。と。立。在。折。し。も。と。捕。す。の。懸。士。と。走。り。あ。と。直。と。う。闇。矢。庭。と。捕。ん。と。顎。く。と。ぞ。全。八。

蝶丸席かづるは大おほき驚おどろた。とく行ゆきは狼藉らぎと。といひせもの。野袴のきの被結揚ひきよ。兩刀りょうとうを斜そよぐ。壯俊さうじゆ。徐ゆきちよと出でを。且また僕わたくし人ひとも。歎あはの仰あが。すうぞ。と。坐すわ。けられ。布施ふせ。今市いまいちハ。まとも。慌眼あわまなこ。眼まなこを定さだめ。そめの人ひとを。えも。これ別べつ人ひと。小のび。典膳てんぜんが。兒子こむすこ。幾松けいそう。曾太そだ。席せき。う。緣故えんご。推量すうりょう。られ。猛いたへ。を。棍こん。うれ。胸むねうち。うだ。そくの返茶かみぢ。よみが。と。只ただ手てを立たす。あ。と。曾そ。さ。赤あか。全ぜん。蝶丸席かづる。を。信のぶと。あ。ま。ふ。や。覲鏡くにきの盜臣とうじん。吉稚よしこた。酒さけ。を。そ。一まい進すす。ト。セ。夥おほの用金ようきん。を。私わたくし。剝奪ばつだつ。三條河原さんじょうかわら。と。鬧いたずら。管領家かんりょうけの走卒しゆそつ。を。益ます。既すで發覺はつく。並なが。逃のが。行ゆき地ぢ。を。う。腰こし。を。縛しば。を。う。け。と。く。い。た。ま。た。く。罵のの。件くだんの。兩人りんにん。吟ぎん嗟さ。し。苦くる。憐あわ。嘆たん。管領かんりょうの走卒しゆそつ。を。益ます。と。と。入い。跡あと。を。見み。と。そ。い。悽ひど。後あと悔くやす。と。の。人ひと。せ。も。り。ぞ。曾太そだ。即そく。呵か。と。う。ら。れ。天あま。の。盜人とうじん。悍がん。と。う。そ。り。り。の。り。の。う。と。か。至。松平まつだいら二。と。す。り。ん。が。門。方。か。く。管。領。家。の。走。卒。を。殺。そ。の。衣。服。を。剥。う。と。三。猪。を。挽。り。出。せ。り。と。證。據。分。明。き。り。院。平。と。く。來。り。と。ゆ。う。と。く。ま。う。と。走。く。小。松。の。蔭。う。年。の。齡。四。十。の。ま。う。う。る。男。赤。裸。そ。く。走。く。來。つ。り。ふ。全。八。際。を。赤。と。す。り。ん。が。れ。を。怒。ま。う。や。と。向。べ。二。人。へ。驚。立。塞。され。ば。逃。出。す。道。も。は。う。忌。し。と。喰。ば。曾太そだ。席せき。う。ね。と。近。曾。吉。稚。丸。の。活。行。跡。う。と。う。は。南。都。は。字。え。大。駿。の。あ。ん。墳。り。ゆ。く。空。よ。厚。食。二。千。等。が。君。を。欺。た。く。私。欲。を。耽。る。私。欲。を。耽。る。不。可。と。二。席。太。夫。同。者。そ。り。く。く。毎。日。と。女。ホ。が。生。居。よ。意。を。是。る。行。程。と。あ。院。平。小。盜。殺。

されうるくた。間者ゆれりて訪る。ものほどふ遺ち扇を見る。隠て恐る  
全八が扇されべ。いと怪し。軀く仆をひそむ人をほび清す。安らぐ。魁生まう。  
見く勧りて名氏を聞よ。管領家の走卒也。院卒と呼む。のこる。今  
非く二勝が家へ厥の仰を傳へ立てる。おーの。如此この男はうそき事也。  
弓が咽喉をひく。締ともほえが。その後をひく。とひふ。られ疑ふべくもあらず。全  
八が不為うりと猪一と、直隸院卒をねらひ。旅館へ至る途中。それも又  
みの曉昏。奈良ようあさうて。二席失と示へ。汝ホを拘捕らん  
とせ。夜よもゝ間者よ引ぬひ。審み一千を限る。院卒を伴ひ。  
通宵汝ホが往方を窺ひ。とふ至も。おもよ院卒をやも蝶  
九席が衣服袴を見え。あきこそが物されど。ソヨガ院卒を驚く  
おれ全八席九席が不為する。間者多く分明う。ととよう。やひゆ  
それが汝木院卒が衣服を剥く。と私用。管領家の迎人くと候。三  
勝を被引。せらひ疑ふべからず。とトヅハ。三條河原。平三とすんが。  
うひられを阻ひ。且汝ホが相若る。足平脚平といひ。隠き。思根  
あるよ。暗夜街の風すかうも。ひね。さる。二席を夫。夜の中。吉稚。あひ  
供く。奈良へあり。それをざわん。汝木を拘捕。とる。かくしてのう向  
陳す。責問。全八ホをもく。周章。恨げふ業を行ふ。衣服袴をそろふ。で。  
業九席がひ。あう。あう。と。吉稚の怨想。も。三勝を奪ひ去さう。あう。と  
五條の旅宿。引ひ。吉稚九の怨想。も。三勝を奪ひ去さう。赤根半七。と。病と稱  
せ。七縛ら。と。遣恨。と。と。喰ば。曾を廊。冷笑ひ。人の悲と奉。お  
が羅を脱きと。と。そのうろひ。と。擇。一あれ。縛とひ。うそ。と。けあらり

淡松日太郎

下部使宇加八

布施勝九郎

曾  
吉  
左  
原  
落  
車  
布  
施  
今  
市  
拘  
る



ぬ。と夥々兵へども。散動たゞて。まづ牒を手が衣服袴を剥う。全ハとく。又  
兵士と格ひ。ふ二人の思棍へ拂退。搔遣す。とさうのと悍き。もとと足  
を立つ。身を立つ。とあく黒じぶ。遂に逃れどとる。所客へと縛らむ。  
あとと曾を廊へ。院卒と衣服を返す。ととを被せ。そひゆす布於今宵  
か奸惡。憎りよ甚う。とらへども。のち管領家へはえられ。這奴おもむれり  
あれ。まこと頗るの誠度とあらず。ふうととて夥の人の歎き。通宵ひじつ。  
這奴おへ六和へおもへゆを。牒を家則よりうさぐ。其舟の今下よ善く。とく  
憤き敵へ。浮よ漏へ。あるとて。叮囑よ勸解へ。院卒点び。そひ  
きよもほ。あれ下す。もと。管領家の祿と汚きのみ。入よ盜らむ。  
いや。役を剥き。とまく。御りう。牒を取る。二条とく。相懲る。  
医師もあれば。それを頼る。まよ中途す。暴よ病發。三猪が家までえゆる。  
醫師竹原が家より立て。保養し。やひの外か一夜明せしと多く。されば。  
アガクあり。悪き。続井家の誠度みもあらず。と信ひ。密語。巴曾を廊  
大よ。身を。口言語を車。と。そひを鉢。ま。院卒ひ。意を。ゆく。  
金八塚。九席。よ。身を。推す。や。木。石。を。推す。や。土。沙。を。推す。  
ア。身を。捨て。引。捐み。立地。よ。愁を。雪。立。か。心。ひ。あひ。あひ。と。罵り。そ  
き。曾を廊。よ。目礼。癪。よ。別。よ。け。曾を廊。布施。今市。と。川。立  
バ。大和。を。立。よ。ひ。と。立。か。か。て。院卒。彼。醫師。う。家。よ。ゆ。と。縁。田  
き。物。立。其。而。もう。送。ら。且。管領の館。よ。帰。り。形。の。ご。り。ひ。と。ら。と。怪  
ひ。暮。別。よ。三猪が家。よ。迎。の。人。を。遣。し。財。の。應。を。立。よ。ふ。その。入。よ。と  
き。う。と。三猪が。門。横。よ。ペ。ア。と。ち。え。え。と。い。ふ。そ。不。審。と。よ。と。

乞う。くらひすゞ。明白み主君の事をぐるが三猪へいとるやありとて。  
まこととまじくら。その夜をてよせ。が結見院院卒すゆよ放りまつ僕  
まよ途よ猛よ病起り遂ニ猪が家よ到とる。まじとり近臣までこく  
彼舉くが死へあたうる咎がにとそ。ゆくび向ともうきう。こふ又笠松  
キハのち。さう三條河原ふく。三猪が橋みうたをさせりまくゆと怪る。  
れを渡り田す。四人の癖者と挑み鬭ひ。又一人の武士。樹蔭うり跳出  
矢庭よ三猪を擣攫ひ忽ちと立と去り。かく入全ハ蝶ちよホをうち捨て。  
立と追田んじつとひも脅闇よるふ。同雨烈一聲は止が終よみど雨  
歌よ後又舊の河原へ立ゆ。ふ脚卒足卒が折殺されとく。彼此入  
立集ひ市の正の下まみく。その屍を獲檢し。ほとく近くをあも  
ばくと。ふ至く。平驚を因愁す。かづらく。これ一時の怒  
ふ事。二人の轎夫をうち殺して。自の罪の脱が。三猪を奪す。去  
きる癖者。よりへ。が推量よ達が。とこれを明白よ。新里く。空刀數多く  
わゆべくが金下ハ惜しよ足くね。と三猪が往す。もろび。又の寃す。雪す。  
もくもく。罪は當らん。と。被癖者。ども。ふくが家よ猪集て  
三猪が房價せんといひつ。旅客もく。御高よア。女児竹づど。とやうんの  
旅館よ召され。それも假初よ面をあく。その人の昂嘗よ。飲す。  
う。三猪。彼木が毒み。階す。も阿客。とよ。伴まじえま。の  
を。も負く。結髮の夫の為。又節操を守る。と。の。人よ猪。と。の。人  
が猪く死ゆやせん。あぞ。俗を脱きく。あびく。又三猪がゆく。を索  
彼を救ひ出。後。もかももううやと深念。一家よ。ど。夜の中よ  
守護の。を。奈。う。平等院の。た。やと。いふ。よく。躲。と。宿よ。院の為。伴と

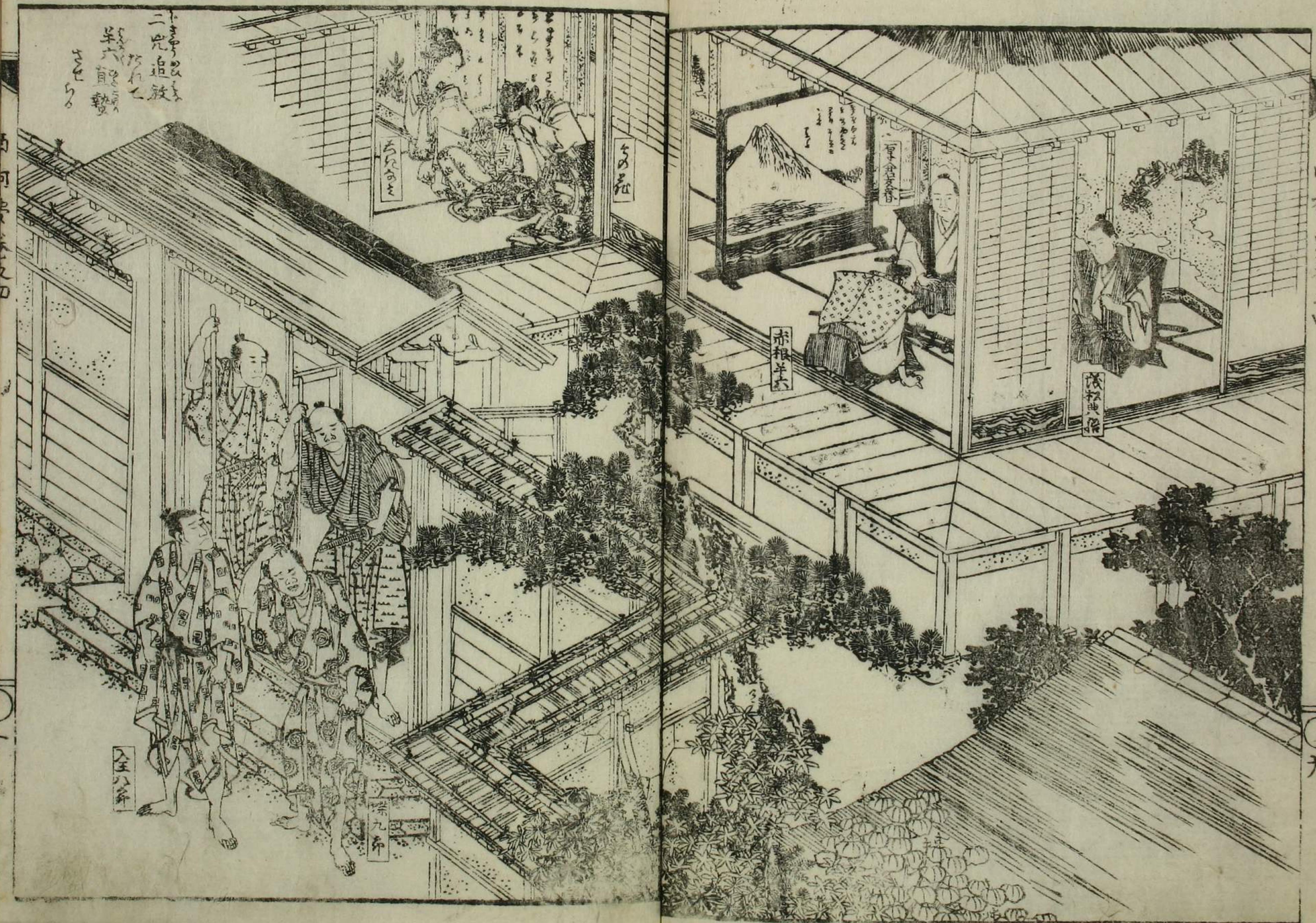
すくよ。件の足平脚平へ隠すを悪想す。元は又舊惡露頭せり。  
らばりく。彼木を殺すため往方を見る索るが事閑こと風声を耳に  
へられを察し。かくはこうあらかじめと猛み陰を立退く。些の時もさ。  
急せき。せいやうほどとひいては。昔もかゝ零落しきる奈良  
ゆう。高月茶を賣る。彼木の茶をもろふ便宜の地うむ。今度も  
南都へ赴く。とぞ。かく宇治の旅宿を立出。直に彼地より到一が。  
昔相識する人もあはく。世をきり。頼むた薦もほ。ちやうが被ひ衣  
服を賣う。旅籠又宿されど。それも竭ういききぐる。ゆくゆく  
笠を戴き。さすすきの柄杖をもらう。觀音の寺場を順礼する行者  
不打捨。毎日不南都の街櫛を徘徊。往来の人の袖又陰あまの商人  
の店前より立在り。乞食。やくま日の暮令下を教養ざる。

百度の願事

厚倉二郎。太夫友春。密み赤根。羊七と謀り。彼木三猪を賣ひ。幸  
相伴ひ。つゝ。松曾。立。親。立。ま。う。て。忠義の壯俊。されば。されば。謀を  
換。全八蝶丸郎を捕。まほう。本丸。こ。せ。る。もの。お。は。ま。せ。ふ。立。櫛の  
旅宿。直。ま。祇園の旅館。又。吉。推。丸。よ。嚴。君。の。怒。甚。を。顕。を。告。  
今市布施が奸心。羊七が孤忠。とく。智。す。演。短。とく。轄。す。幸。と  
ひ。南都へ。人供。つ。ま。よ。べ。と。ま。よ。ふ。吉。推。丸。よ。れ。れ。彼。の。み。を。ま。よ。  
後悔。且。又。の。怒。を。裏。ま。全。八。蝶。丸。郎。が。奸。佞。を。憎。ま。よ。ふ。も。羊。七。よ  
不忠不義の。ぬ。と。衣。を。被。せ。ま。よ。が。恨。を。絆。い。ふ。よ。は。明。白。ふ  
勸解。ま。う。て。り。許。され。ま。よ。懲。く。自。銘。せ。ん。と。回。參。ま。よ。ひ。定。ま。よ。ま  
さ。く。ふ。二郎。幸。ま。の。願。よ。感。傷。と。隠。う。ら。う。と。ま。よ。が。続。井。家の。郎。君。

かくや。まことに。あくまで。君は一國一城の主す。かくもふり。ぐう  
小少郎。よがつひよ。おを塵芥のごとくすべた。今こうへるや。むすび。彼  
を奪ひ去らみく。あくも。むしん。わく。誤を明白に。めのり。彼が  
忠義ひきづり。彼を不忠の罪人とする。大殿の。もん。憤解して  
へ召す。おうん。おのひうふあり。うそと。何うも。壹。一が夜す。二席。奉  
がまうと。まうく。そく。帰館あるべと。理を尽して。速く。儀頃。南  
都。ゆき。まわし。まく。主君。頃照す。僕。頃日。同者。そりく。吉推君  
の。あん言。近臣が。生屑を窺せ。推君の。あん恨。めぐらす。  
近臣。ホガ。うせ。僻。うす。その。あへ。箇様。くく。全八様九席が。爲。体  
審。みだり。を告。えまう。赤根半七。止。く。吉推丸の傳。きう。あく  
まく。病。ゑ。うと。偽。い。そ。まく。五條の旅宿。引籠。舞。ニ。拂。く。ふ  
淫婦と密通。人口を憚り。後難を怕。全八様九席を相詰し。彼  
を。吉推君。まく。進。せ。酒宴。ゆけ。せん。と。計。寝。一。が。す。発覚。く  
罪。脱。く。や。ちひ。三勝。を。伴。ひ。く。行。地。も。う。遂。電。せ。全八様九  
席。ホハ。従。まく。腰。く。す。ん。と。せ。を。蟻。松。曾。左。郎。捕。そ。引。來。よ。う。  
かの娘。登跡。分明。ひ。ば。日本。の。あん。情。を。散。され。ひ。え。子。の。對。面。く。よ  
ほ。推君。何。も。や。ひ。う。け。ぬ。よ。凶。の。甚。」と。す。く。以。食。く。うち。鷲  
さ。ひ。直。よ。冷。を。發。駕。あ。て。今朝。ス。イ。入。ら。を。也。じ。も。ふ。く。畏。り。て。老臣。ホ  
ア。も。あ。ひ。か。も。い。と。痛。く。え。え。ゆ。ふ。う。と。言。詰。を。竭。く。ゆ。え。ゆ。の。ま。が  
順。昭。は。く。ぐ。と。笑。く。近臣。ホガ。うち。も。拗。す。非。ほ。の。舉。止。く。つ。と。あ。で  
又。み。愛。を。失。く。と。一。つ。る。吉。推。が。越。度。され。ど。彼。ハ。年。う。可。せ。み。も  
儘。ど。ひ。ぐ。乳。臭。の。孩。兒。く。か。ぞ。う。の。過。を。免。く。せ。を。放。近臣。ホ。ガ。乱。行。へ

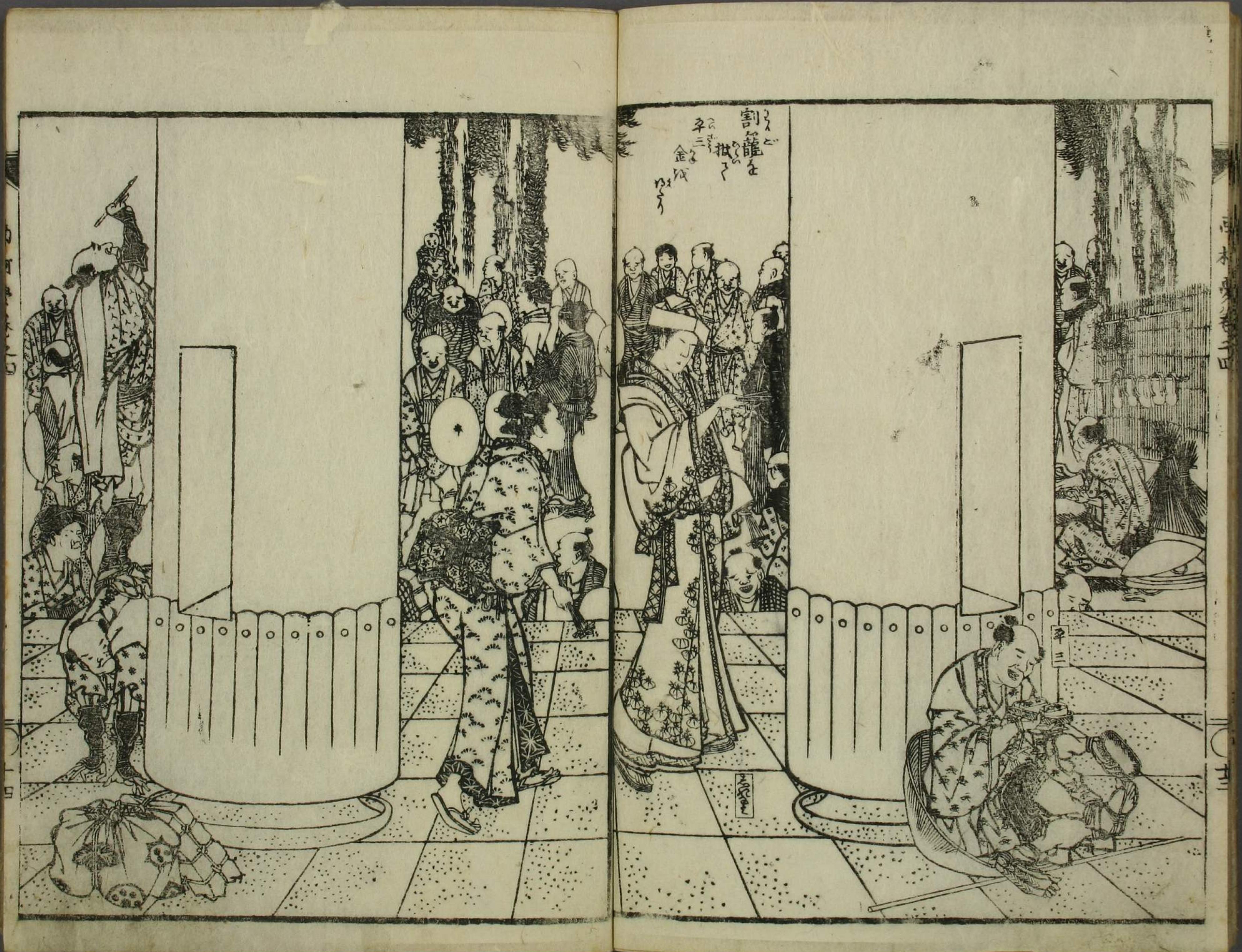
その罪を宥めし。就中赤根半七へ物の用ひをもつておひく。恭うそか  
すむ立場らし。日重く用ひるよ恩を宣ふ。恩を宣ふ。恩を宣ふ。白徒あまの  
彼が往方へ草を刈拂ひて。宮より汝典膳みやゆうじんぜんとあるとも。全八疋まこと九  
弔さーんを鞠向くじゆうす。またせがゆくも。ナシトモセミタガタなと。小膝こひざを敲たたく。保  
されば二郎りょう太夫たゆう達たつく。あれをうけたまふ。又まも。からくへ吉稚君よしづね  
對面おもてすく。老臣ろうじん木きがをも安やすらしやう。とまはせつべ。順昭じゅんしょうさば  
透とおりあらそひ。あらそひ二弔にだいを夫めへ。吉稚丸の子金こがねみいやさん。一五十七  
を告。賓ひびきす。舊ききの政まさと。順昭じゅんしょうちく。吉稚よしづねをけし。此度のまつて  
近臣きんしん木きが非法ひふの舉止きよしへ主しゆの悞まちれど。おひま。弱官よわくわんされば。ふくも  
詫わいを。以後いじを。はら。と。教訓きょうくんを。吉稚よしづね。始終しゆうじん改かを。低おさめ。おまじく  
詫わいを。以後いじを。はら。と。教訓きょうくんを。吉稚よしづね。始終しゆうじん改かを。低おさめ。おまじく  
退しりぞく。さる程さるごよ。蛭えん松典膳えんまつてんぜん。君令きみれいを。勲いんす。二弔にだいを夫めと。りふ。全八  
蝶テバ九弔くじゆうを責せき向むかふ。彼かれ木きの家の罪つみを怪あぶせん爲ため。半七はんしちをあさまつひ。ほ  
奇き僻へき愚ぐよく。せせよ。御ご三さん綱つなを。綺き麗れいもと。と。とも。三條さんじょうに原はら  
後ののよし。竹たけ地ぢへ。ゆれんと。も。あくびと。此度の奸計くわんけい。半七はんしちが。うそ  
かと。うそ出でるよ。却しかし彼かれのひ脛ひあしを。苦くる脩しゆの。ひく。ためを。見る。す  
是ぜ非ひよ。及およぎ。と。回まわる。嚴いつく。責せき向むかし。の。外ほかの。み。ひら。ひら。ざ。ま  
よ。よ。曲まげ膳ぜんへ。よ。半七はんしちを。憎にくむ。這奴このやつ榮賣えいばいの。發は見みき。よ。と。隠かを  
蒙まぶり。近臣きんしんの。上うよ。列はたり。剝むし千せん。ひ。宝たからを。換かわす。女兒園めいりん花はなを。妻めぐらわ  
あへせん。その才才能を。愛あいせん。あへる。を。彼かれ大おほ自じり。近曾玉ちかそぎょく。朋とも輩ひ  
を。相あわせ。ひ。舞まいと。交こう通つう。よ。よ。面おもて目めを。失うしなる。言こと詰づ同どう断だん  
を。相あわせ。ひ。舞まいと。交こう通つう。よ。よ。面おもて目めを。失うしなる。言こと詰づ同どう断だん  
を。相あわせ。ひ。舞まいと。交こう通つう。よ。よ。面おもて目めを。失うしなる。言こと詰づ同どう断だん  
を。相あわせ。ひ。舞まいと。交こう通つう。よ。よ。面おもて目めを。失うしなる。言こと詰づ同どう断だん



か。まが羊六又離腹を切らせざれ。との憤のやうへり。といふとぞ。彼又  
子を四馬ると面めぐらふ居るべど。園花は又の怒の烈き。又すみゆけ  
笑ふ。よつてく。好とおもひてほ。よすせが往方あはづき。りきき樹  
の蔭草舍の簷下に立ゆ。もひえ衣ぬきを秋同。スや病氣の  
度へせざる。故え。病す。モ。あくまでけとべ音耗を等聞ふ  
まると。かくをすと恨をあひけ。男子と生む。ひや。婢妾もゆる  
の女。況く旅宿の徒然。化一女子と假初の勢を絶びゆへる。  
今下さうぞ罪あひじ。あらを腹のうち。ふ縁故もあらず。よつね。ま  
まくそく殺さん。理ともあはえ。そぞそそその娘みく。男と  
殺す。うそんどうひえ。生る日の物。ひ。死て後。迷ひ。何ゆも折  
のあーく。彼人の在さねば。ゆるまふのくいふる。さるとく。向か考  
ぞ。もあんする。あらわ。さが水す。自害。うせゆく。人をもな  
をく。おひもを夫の底へ解く。顔をくらう。慰ふ。うそ  
もあくよられ。又寒あ木林とくらう。おれ。げや。おののどうう。と女を  
凍れ。母よく。お声を惜ぞ泣く。おれ。おれ。おれ。おれ。女児  
が負様のあつひぬ。ぬみ薦す。ゆうやくおひく。夫を凍れ。寛るみぞ。典  
膳も。園花は泣きを止す。勇たうろも。おれ。終。羊六が死刑を  
放す。彼乞の罪状を定め。二布を夫とももふ。主君よ。見えあげ。おづ全  
八蝶。九布を追放。ばはれ。その子の罪。おう。おれ。生仕をす。おらる。  
カマーブ。せ六も。お子の為。体を。おれ。おれ。凶。驚。見驚。おれ。薄冰  
を踏。うち。憂苦の中。日を。おれ。終。生仕を止め。直蟄。お  
こぐだ。典膳。九布。夫れを傳。僅。命を繋ぐ。おれ。月俸を

ありてられば。りとく。送恨は堪らず。されば。とそは七が。日本博士ぶりて。  
親の遠を用ひ。お禍を急せし。這奴憎じ。やくとも。こそがふ  
恩愛の悲しき。その往方か。もみりとす。すとんぬ奴。罵り。えゆすと  
へうち歎き。天日明あうと。も。とが家の。もひと暗く。絶え。訪人の  
ざれ。憂變を慰む。もがわは。げふ榮枯得喪。四時の代謝。がくいえ  
ゆる。精の私後。も先。ごうも。びと。秋。よあら。ごろべた。彭祖が命長  
ゆく。子孫みん。傳ぐ。石崇が富貴あり。生涯を。と。とよ。と  
ぞ。徳。まじ。貴がんと願へ。バ危く。富く。驕りの。亡とうや。禍福  
吉凶を。裏の。ト部。よ。向ん。尾を。佐中。よ曳かれて。あう。半六。と  
とたよ。米菴の楠を伐る。事。後悔し。輪篠が。諫え。ちひ。生れ。て  
朽木。と。今ハ。その。ひき。うり。さう。程。と園花へ。あく。と。半六  
と。死。と。母。と。うて。病。と。下。不。除。増。つ。ゆく。びうち。臥。と。う。絶て  
首を。擡。ぞえ。本想思病の。うされ。巴。醫師の。眉根。そ。と。速。み。と  
平。愈。を。か。ん。といふ。典膳。ハ。安。を。知。も。う。敷。寝。ハ。毎。日。と。奈良の  
大。仏。と。奈。浦。と。百。度。手。と。り。ふ。り。滅。く。女。見。が。病。是。頃。と。卒。復。ゆ。せ  
ゆ。と。禱。の。外。更。小。代。す。と。う。け。り。生。い。こ。と。あ。ん。笠。松。下。三。ハ。奈良の  
菴。と。徘徊。と。歌。祭文。を。唱。と。食。と。日。を。と。す。頃。と。も。九月の  
廿五日。と。う。ね。と。ハ。高天神の。會。日。あれ。ば。と。と。の。事。と。き。と。言  
道の。老弱。と。袖。を。と。告。か。と。説。き。の。代。系。と。も。と。と。て。従。者。五  
七。人。を。あ。ぐ。る。武。士。門。前。の。茶。店。と。舖。を。と。店。前。と。驚。ぐ。と。そ。の  
旅。ハ。と。う。と。と。入。と。主。役。割。籠。を。被。く。と。モ。半。三。と。れ。と。そ。  
あ。と。と。の。ほ。と。う。ふ。り。と。従。者。と。對。ひ。と。食。と。順。礼。の。初。者。と。の。

えり。その声戸や漏等えんまきうる武士。差當を候す。ふほ  
ちくとひじきそれば。件の若黨とうべゆ。半二を以びへ。  
飽まふ飯を食し。汝今飽うればと。豊多がるも  
有た。とよお向が主の食残一匁あり。割籠ともあり。ゆゑ。  
夕餐ふせよ。宣らること。すそ索り。真中をゑと振り。これ程で  
ゆけといふ。半三は數回押載さ。割籠を引提つ。又社殿よりて残を乞  
せ申の下駄を及び。もの麻糸を絞り。大佛堂へ赴だ。又物は  
ふくらむ。高天神をねらう。割籠をひく。ひもく。飯の  
中より一色の金あり。三猪が所價と書つてある。えりふと驚た。怪しき。  
づと尋思。縁故を推量。三猪を奪ひ。したが。の領主と  
の世の対を憚り。こりか。奪ひよ。後よ。こそくへたるや。  
又三猪が舊の養良又。立條の村主。結髪の夫也。彼不よゆと笑けべ。  
それらが正為。二ツふ一ツへ違べ。廻莫され。許多。被も垂り。まの  
を。もしく計策。今更の金をり。ふを。蕩えと。そい。  
腰。しが。高天神の茶店を向て。被武士の名氏もそよせられて。  
俄。その茶店まで行ふ。割籠を被ひ。妙此との歎へ。領主の  
内也。何と名告ゆ。常よ。又想。あう。そあ。そあ。そあ。  
まよ。主人。答へ。ふひと。ふひと。  
よど。さて。次の日立條。赤根。六根。向。里人。ばかり。まよ。  
六根。近曾。用籠。まよ。おも。縁故。子息。せせ。杜伎。郡君  
の。おん。供。京。まよ。三猪。と。舞。と。密通。逐電。そろ。罪。イ  
あく。と。半三。うれ。を。まよ。下め。曉。まよ。三條。阿原。まよ。三猪。



を奪ひ去る壯俊と。結髪の夫赤根半七と。すこし彼より又  
の志は情をかしこ主の供へて落すやう。その便宜をねぐ。密に名告  
ゆ。夫婦りうとも奉さん。がらぶうど一言。これより如此とぞえざる。  
もとよりほどく方人也。後と挑と闘ひ人を殺すの罪をなす。寛は  
親のとう子をもどして。その常言を。一ありし。一実の女兒うりやん。  
かくまごふあくびと。今へおひなえ。みオ價も何ぞ。どう恨みつ。  
えどふす。されども不審への金く。彼本も爲体多く奉る。も  
お價を贈らんや。それから敵をあすめとて。まかよ地をばけふ  
けと。彼割龜をまくる人よ。やうあへまくくて。領主の藩中を徘徊  
徊もよき食されば。内へ入らむべ。まく餓々臨ゆ。件の令を  
一枚もじうれど。え身壁をもよとぬ罪人のまされば。懲り入らまう。ま  
渡らんとおうと。奈良の街衢を徘徊。さびくよ三猪が在所  
を窺ひ。の外。月日を。四年。五ヶ月経たる。

## 夜半五月臘

さて赤根半七。まみえ三猪を追暮。三條河原。全八蝶丸郎等が。  
半三と並んで戦ふと。矢庭。蝶丸守を突いて。三猪を小脇よ  
お抱つ。周よ翁をまくり。行原。蝶丸守を斥く。吉田の森をうちふる。  
白河山の麓。至る比ひふ。兩も歌う更闌。月へ出まし。夫はう。結陰  
路。往く。往來も既に迹絶。三猪を打あへ。まくゆく。縁由  
を告げ。理うちもおこへて。まこそ懼いものやひけり。もじれふる。  
を詠り。生せりのどりも。ぶ朋輩。おれど。彼本と。隊へて。や。計  
兼う。みへあふ。彼が彼が。私慾の為す。されハクふ。ありて。おま

の為ふと審ふしらんハアダケ。だよの隠界を付えあはゞべ。いやる頃。  
そきの祇園の旅館よりまへておひる郎君へすまうちも主君ふく。や  
どきた人よ在ぞうう。宿一格よ定ひあつた。近臣よ至らず。明白ふへ名を  
ふ。宿酒よ耽りあつて。僕人ぞとがさくやふれど世よせえう。さて郎君  
の態度とまゝて。うう。宿の出来えも量がに。ふもうく。大殿う。憤  
あ。連ふだく。愛子をもづく。失そくとりをすゑべ。家隸ホム  
て。歩行を握り。周章大さく。あ。もととざねば僕人ぞ。かくのそあ  
て。郎君を宿酒よ誘ひ。自ゆを伎倅ゆる。そく。伏欺きて。奪ふさん  
とせう。ようとり。アガオタマ。病。宿。旅宿を異ふ。且生居も自在  
あ。とせう。これを棄す。とをなざり。中病。もとと黒きと。お  
もあ。志。同志の忠臣。宿す。旅宿よ。宿外く。心中の機密を告。

そきの旅館をとく。これ代う。それとそきと密通し。その非を掩へ爲ふ。郎  
君ふ假托。贋の手を計較。その手發竟々。垂りた。と風声せば。席君の  
心。惡名を雪ぐ。主家よ禍う。と相沿じ。親を捨て。身を捨て。そやう  
を顧。そめう。不善の儒衣を被る。雨夜の暗紛。西施を投る芭翁が。  
志。やいせど。それと。遙よ質ひ。縁も好もるを人を。虚う。患う。寢よと。  
の。く。く。をとく。も。範。すく。も。お。ん。が。か。せ。れ。や。が。主。家。危。く。家の  
隸。老黨へまく。その妻子よ至る。悉く離散せべ。その人の歎  
き。身を救へ。夥の人を助く。されど。ひ。歸れ。僕く。駆けよ。とく。鬼じ  
とふ。や。ど。忠義ふ換ふ慈悲へ。お。う。とく。そ。み。とく。を。救。と。み。あ。ゆ。す。  
これ入。心をうえ。腹を切。仇も怨もあた人を。救。罪へ贖ふ。が。又  
そきの親。何。あ。それと。あ。せ。折。を。め。る。報。を。う。と。べ。そ。く。

同志の忠臣ふせえとされば。後の事へ乞易られ。縁故へかゝの女。不便  
あがれ盛の花を。散らむ忠義の太刀風を。弥陀の利劍と觀念。仏果を  
めえ。とりひもあがれ。内へと引抜く又の電。薄づれみ三猪へ吐嗟とぞう  
走退を。ゆきとすせがえ。突かりぬを乞賀。裳蹴りと夜あしよ。  
山川の音凄く。あとやくとほゞ声も。妻恋鹿の友音の。應と助くる  
人もなし。三猪ハ稚たる。舞ふ手馴く。おも絆く。せせらぐ。こう  
ぬく。殺さんと。そんが左右を打かう。追うち。迷途。是や叫喚大  
叫喚。冰の地獄。焦熱の玉をと行ふ。身も冷て。腰とかく下ふ。三猪  
今かと見え。すよ枝ぬ。虫官ふ。身を脱ぐとすも。下べ。忠義乃爲と  
寅の事。事をとむる壯士の。迹とく。脱一からんや。命とく。迎よ。  
ひきと門の山ふ。禁う。禁うちふ。敵果ふ。身の秋をりふせん。さる前  
ひきと門の山ふ。禁う。禁うちふ。敵果ふ。身の秋をりふせん。さる前

よの悪業うけせば。人を恨む。うされど。故ありて。う年生。死も。財  
母を慕ひ。傳母の美理。鮮き。うのとくえもあんね。人ふ。一言遣  
きく。後小のふ。ゆく。うどり。声も。寝ふ。ゆく。憂る夜の。顔。定ふ  
ええねども。心ひき。風情。す。す。も。瞼ふ。ぐ。と。鳥の。えん。と。と。  
その。ゆく。悲。人の。えん。と。と。と。う。そ。の。り。ふ。う。と。り。う。そ。の。寝。ふ  
あれ。ゆで。や。は。ゆく。ま。う。三猪。ゆく。う。と。と。ふ。胸。ゆく。う。も。そ。一  
候。を。押。拭。ひ。耻。う。と。あ。け。と。ど。う。が。又。ま。松。年。三。冥。骨。肉。の。親。う。  
ぞ。過。世。ゆ。く。て。三。才。の。う。と。と。垂。乳。母。み。生。別。と。又。ハ。又。う。が。セ。才。の。秋。斧。よ  
め。れ。う。非。命。ふ。せ。を。去。仇。ゆ。人。ふ。恩。を。稟。養。き。く。恨。を。捐。く。  
考。れ。ハ。尽。き。ど。と。も。不。孝。を。せ。と。お。を。省。ミ。生。居。の。障。子。あ。く。れ。ゆ  
福。を。仕。一。養。母。え。世。を。早。じ。と。後。へ。り。う。お。み。う。養。え。み。陳。九。方。の

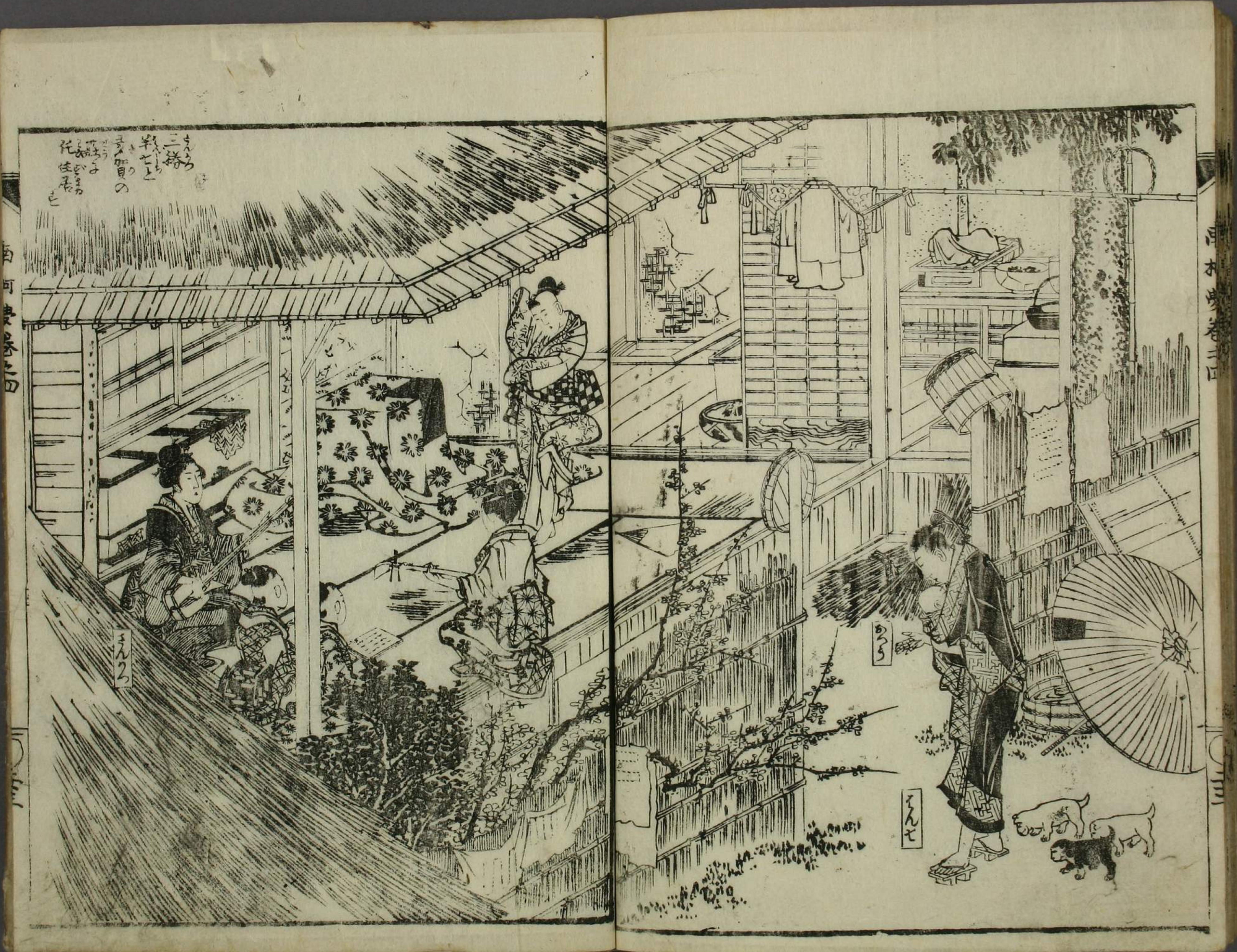
冬人もとど。教さんとあらしが。かくうりきり人の情ふく。命助久の  
人を。入とみて養育。家丈仲。とく友呻の孝み。葬くとくさうはな。  
稚をとくふ結髪。夫ふ一ト。び環會。母の生死もよほゆく。耻を捨  
たる世渡。朗詠催馬樂。早歌。人の哀慰。とくが嬪さん慰る。とく  
も絶く。位顔を。うみを。樂屋の十す鏡。すらね。操を。狩衣の。あぐり  
もつぶ。夫ふ。あくせきは。とくやども。鳥帽子の。かケ猪うち。音耗  
とくがそのえ親よ。捨てゆる恨む似。あくば夫ひりぞう。云  
ふく。あくせん。逢ふあくられ。死ねばとく。阿翁の。隠匿を。よ  
夫ふ羞へ。せどとく。と彼不ふ。あく。遠離居。城。かく。今  
霄。見もあく。人ふ忠義を。とく。今。の親。かく。孝。うとど。き情。や。よ。途  
きく。どうに。冬を。人よ。暖。ひ。ひだり。懲。れど。身の悪業。へ歎。ども  
及。び。護身囊。夫の紀念。内。う。機。ハ母ふ。割。け。ふせよ。と亡父  
の。遺。せ。も。候。る。涙。の。兩。ハ絶。ぞ。降。る。笠屋三勝。が。身の果。を。う。と。そ。後  
ふ。宿。く。と。夫の。名。と。う。ふ。嘆。り。あ。げ。つ。掩。袖。ふ。言。の。終。へ。口。隠。り  
ぬ。半。セ。ハ。サ。メ。再。ふ。お。ひ。わ。る。ゆ。タ。の。と。う。れ。眼。上。ふ。う。あ。げ。た。る。双。も。耳。も  
側。そ。数。回。嘆。賞。し。寡。子。ふ。稀。き。孝。乞。苦。節。ふ。う。く。あ。ふ。羞。る。こと  
あり。の。そ。あ。の。乳。客。を。あ。き。ん。と。ひ。ひ。が。や。と。向。べ。三。勝。駕。た。怪。く。を  
り。う。す。く。あ。う。ゆ。る。う。の。入。り。と。お。ん。ざ。り。ま。う。く。せ。う。が。眼。前。晃。わ。く  
刀。ふ。袖。影。せ。ど。又。き。う。退。く。圍。の。方。ふ。鳴。う。渡。る。雁。が。音。も。女。夫。う。友。と  
疑。ひ。の。天。う。晴。う。雲。の。間。ふ。頭。を。生。る。月。影。あ。く。う。下。め。う。面。を  
あ。く。う。う。う。う。見。ま。う。稚。顔。と。衣。服。ふ。深。く。大。柏。の。效。へ。互。ふ。お。母。え  
ゆ。う。う。う。う。夫。ふ。く。あ。う。う。げ。ふ。お。き。ん。ふ。く。あ。う。う。よ。こ。か。う。り。ふ。と



かうとありふ。果とすと、そぞ理する。そのとたばせへ。又をあきらめ。三猪と勦す  
まき。ときうきうき。扶け。小草刈布。のうともふつひぬく。そそりやう。これ近曾吉雅た乃  
あん供も。洛よりうとりぐも。病氣ふきうちわされとば。絶え下すじゆ  
そそくふ逢び。え本主従。その名をふく。薙られ。続井家の郎君あり  
とう。ちひりくどやうりん。雛みも兩夜うるふ。ひしきとおれが声戸是  
かうとれもス。告妹子うそとへあうだうと。稚きとくとふ別よ。うべ。面がう  
へゑほきど。霄闇うそとおうし。りそやうて刺も殺一ひば  
きくは悔。あうんがん。鳴辛危うき危うり。さるふくも。そくくへ  
豊田の山卒あく。荒熊よ飼まされ。う。危く生れも見と。大く  
へゑようと人と歎きうひるふ。今。物語ふくすうやくふ曉。ひね。ま  
乞うが又のうと望める。人あとは失くとくふゆひなわ。さるとあがうり  
恨うとす。きくとが又の非をあくと。家すもあくと。その孝子の貞  
感激ふ堪。それへ却りひびき。又の命懃々と。近曾蟻松典膳  
の女児園元を娶られ。前の誓い破れど。終よ下さじ。彼と食を  
共ふせど。この年暮れ。夕うふ。そめく死せりや。世ゆゆくや。あじゆくと  
神仏。祈願せ。驗みて。今日今宵危窮ふ迫り。ソレ瑞會と。  
あれも夫婦の恩縁うそと。形うや。と母をもすと。園元がうりと  
さと。吉雅丸病氣保養の為。洛よ往びゆく。今市全八郎。布施蝶  
九郎が奸惡。厚厚食が誠忠。曾太郎が質折。とく京奈良の為伴。一五  
ひだりと。昔丹波都どふ誓ひゆうる。榮利の為よ忘却。蟻松氏と  
縁一結て下じろ。さくが失くとふゆいと。それと面目うと。

それとあとはともえやそぞくを教さんとせへ。兼忽の举止は似てゐる。一  
夜ありとも伴ひ。才を鬻くあつて。とおひ定め。誠心の羅がある。とおひ  
ゆふ。かららざれを告ふ。ふくとも絶えずあづまび。空ふ不思議の對面  
くとく。首尾を物ぐれば。三傍俊を壇うにて。參まへとすれどが為よ。代一  
妻をぶかひぬ。ときみの愛ぞ情ゆも。ひよね人の忠義ゆゑふ。うなづる  
色情の名す。負ふ。もの傍よ一志を。やまく悔く恨く。いふ  
て後ひひひよ。と言の禁ふるの神へ在ねど。柏の紋を舞の衣よ。ひよ  
ちひよ。君とまづく大和岐ふ。ゆうとどうつ妹と夫の山のうひう。隔られ。か  
みかる。おきよ。まづく雲のたゞがくひ。そぞろの空の。瞻て。月も日も。ある。  
よ。照じぬ。とおひけしが。す名告ふ。年來の志。ひづく。さう。かく  
命も惜しき。今の養え。ハ卒ニ。ほ見て。卑に世ぞ。うへども。おどり。おどり  
ハ立揚ぐ。財宝の為。小惑され。信哉を失ふ。人ふあづ恩愛ゆりとあたは。豈  
祖の孝行もえつた。又母の生死も向定や。ばして墓さく。うやうやす。いと悲  
ひ。かどり。故もそく。おなへ。園花。どもと。よ。妬とく。ハ罪。よ。よ。の  
忠義。おきなづく。被殺。どうた。口。殺。芝生。よ。生。よ。死。よ。嘗。を。令。し。白。く  
妙。き。る。頂。を。伸。一。花。咲。る。姫百合。の。散。を。送。と。こ。み。往。半。七。七。七。  
嗟嘆。して。これ。の。そ。ト。わ。寂。え。と。お。定。へ。身。を。鬻。く。せ。そ。と。て。う。新。よ。  
既。よ。お。妹。子。き。り。と。お。そ。く。これを。教。そ。の。義。よ。達。へ。り。され。ば。と。く。夫。婦。り。う  
とも。ふ。存。命。て。ふ。よ。が。忠。義。よ。假。植。う。逃。も。難。と。も。ま。う。え。ん。ど。り。ひ。そ。く。夫。婦。り。う  
護。厚。倉。や。面。が。お。ま。れ。べ。と。そ。き。を。教。そ。の。丹。波。都。ど。の。誓。安。ひ。し。次  
母。の。言。諭。も。り。と。つ。お。う。そ。う。と。ま。か。存。命。そ。の。經。運。ま。ハ。卒。ニ。い。み。よ。る  
あ。い。孝。行。を。尽。し。よ。義。を。ち。か。不。孝。う。と。お。死。ベ。た。ハ。ア。オ。ギ。とい。ひ。

刀を抜き。三猪怪と撫てて通ふ。伊予をもひそ。忠孝とおを  
殺し。安らじよと三猪もりうとおふれはとんじん。生残り。物思ふ。情ゆ。  
言の葉よ似て。情よとや人へ向く。親と親とが誓つ。許せ。いわ  
の妻うそとや。のうともかをきてん。景護と。おぼるべ。ふくすを死へた。  
ひと理すと恨む。推ね添てる刀の鞘ふ。落る涙へと。駿の玉も數多き。駿  
人の歎き。おや哀れ。すせん。三猪は棟らむ。けぐとぞひへ  
刀をあさわ。げふとれき。恨て。も殺す。これも死年。僧よひの  
地を立退く。一日くとも妻と。まじ夫と。終生。節操よ報  
ぐ。亡母の庭の訓も忠も義もあり。袋ぞ祥く。今よりとどうをかる。  
胸の殻もあり。樂昌公主の故事も。慢ふやひ出づれ。秀まとて  
方を配せば。おもとく。三猪が頃う外も掛絆も。是や奴をくび  
むきの神。送末代の形見。全裏も悪因縁。うそとて。郎君の  
おん悪き。ふ雪ふ。夫婦がうハ數う。とふり入つ。それゆゑ。罪なまん  
うとろひ。大和みあらね山の棟。そ。ふくらむ。瞻み。日魄も。や傾く。木の  
間漏る。遠寺の鐘。音。草葉。集。虫の声。よ。哀れ。  
十す穂の薄。うなぎ。夫婦後ふ。先よ。うち。ゆく。行ふ白河山を  
うち。踰く。湖水を。え。連や。うが。かく。陰。天。ハ。う。のくと明ふ。  
かく。て。す。二。猪。ハ。さ。くる。由緹。ひき。ど。近江國。多賀莊。佐木の一  
族在城。く。宿。も。遠。く。ど。そ。と。ふ。便宜。の。地。う。豫。く。笑。と。ち  
あ。と。べ。軀。く。彼。ふ。卦。た。く。僑。居。と。ふ。ふ。此。と。う。三。味。線。と。り。樂。昌  
ま。よ。お。ま。く。と。れ。を。嗜。む。の。愛。う。と。れ。と。三。猪。が。又。丹。波。都。が。彈。初。う  
う。の。あれ。が。い。と。昔。を。忍。が。と。三。猪。の。落。よ。あ。く。る。日。う。と。做。ひ。浴。う。



ふ。彼此の女の童ふ。彼三味線を。教。せし。男の童。よみ。迹の指南を  
き。艱難の中。よ月日を。とどく。その年の十月。とう。三務。右房。安  
し。老。夫。妻。子。生。生。を。親の。ひび。守。養。育。子へ。恩。受。も。か。と。と。ゆ。け。ば。夫。  
婦。ハ。口。掌。中の玉。と。慈。そ。その名。を。阿。通。と。ゆ。び。つ。面影。又。母。ふ。肖  
す。い。と。美。麗。す。さ。る。翁。ふ。光。陰。矢。の。ぐ。又。梭。の。ぐ。お。通。ハ。イ。ヤ。五。才。ふ  
す。り。ふ。父。母。三。務。が。毎。日。ふ。彼。此。の。女。の。童。よ。教。る。そ。せ。う。れ。す。さ。う。  
ぬ。舌。ふ。柳。節。咽。ふ。も。可。愛。し。や。う。う。れ。ど。家。へ。究。そ。食。く。く。く。只  
知。と。う。子。を。養。ふ。物。是。ぬ。身。の。く。あ。れ。ば。夫。婦。き。く。姿。合。し。  
の。ふ。出。を。あ。の。べ。す。く。究。竟。の。地。あ。れ。ど。山。ふ。と。う。う。れ。ば。絶。く。大。糸。の  
音。つ。と。を。は。う。ま。う。い。流。の。景。迹。を。る。よ。く。ほ。豫。食。は。宿。う。り。苏  
ら。ぬ。都。會。の。地。き。に。然。圓。の。人。の。集。食。と。う。う。れ。ば。外。う。ぐ。大。糸。う。ぐ。  
の。す。り。又。三。務。が。養。又。平。三。が。み。を。は。ゆ。く。と。う。と。が。わ。り。ト。い。う。く。く。家  
財。を。活。却。ノ。一。路。費。と。親。子。三。人。麦。賀。の。莊。を。首。途。と。中。先。道。を  
下。下。くる。ふ。時。ハ。九。月。の。そ。め。を。住。つ。る。旅。寢。も。寒。い。ゆ。き。く。水。薦。艾。  
信。儂。う。る。杏。掛。の。驛。よ。宿。か。し。夜。す。セ。俄。頃。よ。發。熱。く。うち。死。ぐ。む。有  
え。が。終。よ。風。濕。と。く。て。腰。よ。ど。薄。陰。草。う。と。あ。う。め。く。齋。し。な。浴。銀。も。  
と。ふ。至。く。用。ひ。尽。一。進。退。窮。り。く。り。う。と。の。ア。ド。き。れ。ど。三。務。ハ。い。と。か。い。じ  
く。看。病。一。エ。ド。が。役。ハ。衣。服。を。賣。ア。旅。籠。を。貰。ヒ。せ。ホ。の。價。ふ。る。く。れ。ど。も。  
り。程。う。一。それ。も。尽。く。あ。れ。ど。あ。れ。ど。も。あ。う。ね。里。ふ。見。く。物。借。ベ。友。も。あ。べ。  
ア。リ。せ。今。ふ。不。ト。モ。賀。よ。ゆ。と。り。と。悔。や。く。ど。そ。人。の。く。み。く。と。れ。も。う。し  
き。一。夜。く。ふ。寒。け。一。れ。ど。親。子。が。膚。ハ。す。肉。夏。の。や。く。く。ス。や。通。二  
病。も。せ。え。う。と。て。又。母。ハ。レ。ム。ふ。く。る。一。ふ。通。ハ。友。も。う。ん。旅。の。往。愁。よ。深。モ。

え廣き宿より舊の狭た家が住す。翌ハ多賀へ帰り。ゆどく往  
み。彼と又我を以て。まじへひく肥をかね。輒魚の涅を喰くふ  
異うべ。然ば三猪がふほそさへりあらん。寛よ是苦中の苦の秋ハ  
只よがむともの。秋うとくひまつまづ。

